現代の国語・言語文化 （解答番号 1 ～ 30 ）

Ⅰ　次の文章を読んで、後の問い（問一～十五）に答えなさい。

何かを思い出そうとするとき、ある人の着ていた服が何色だったかということは比較的鮮明に覚えているものである。また、あの資料は何色の袋に入れてあるとか、何色の表紙の本だったというように記憶していることも多い。私は、こうした色の記憶というものを、情報術にも活かしたかった。

オリジナルの3色ボールペンができるまでずっと4色ボールペンを使っていたが、それ以前は、色鉛筆を用いたり、蛍光ペンを用いてみたりしたこともあった。

赤・青2色が1本になった色鉛筆は、線を引くには問題ないが、すぐにアシンが丸くなるので文字を書き込みたいときに使いにくいという欠点があった。

蛍光ペンも文字を書くのにあまり適していない。鮮やかな蛍光色は目立つし、コピーをしたときに写りにくいというメリットはあったが、文字となると書きにくさばかりでなく読みにくさも伴った。

何より、2色鉛筆ではふたつの区分けしかできない点がネックだった。蛍光ペンの場合は、いちいちペンを持ち替えなくてはならない。

そうしたことを解決してくれたのが1本で何色も使い分けられるノック式ボールペンだった。

3色の使い方について、最重要は赤にするというところに異論のある人はいないだろう。これはイきわめて一般的な感覚だと思う。われわれの生活の中でも、とくに人の注意を引きたいところには、たいてい赤が用いられる。

赤でマークするのは、それを落としてしまうと本質を欠くという部分だ。赤と青は、誰が読んでもそう思うという客観的視点でマークするのが基本だが、じつは赤をつけるということは、「これは A はずだ」と自分が強く思っているわけで、そこには個人的思い入れも多分に含まれている。

青の場合はそこまで強くない。 B 重要ということにしておこう――そのくらいの冷めた感じが青だ。たくさん引いてもいいが、少しくらい欠けていても大勢に影響はない。それだけに、赤のように強い思い入れを抱かない。赤を思い入れたっぷりの情熱の色とすると、青は〝脳みそ冷やし系〟の色である。こうしたやや冷めたスタンスで取り組むところも必要だ。青があるからこそ、思いきって赤が引けることになる。

それに対して、緑は完全に自由な発想ができる。自分のセンス、自分のアンテナに引っかかってくるものなら何でもいいからだ。緑というのは、気持ちを晴れ晴れとさせる色ではないかと思う。非常にリラックスできる色だ。

私は、勉強や仕事にも、もっと遊び感覚を取り入れたいと考えていた。それにふさわしい色は緑だと考えたのである。

私が黒を使わないのは、ひとつには、文字情報のほとんどが黒で書かれているからである。資料のほとんどが黒1色で刷られている。世の中にこんなに色が溢れ、広告宣伝パンフレットなどは非常に

多彩になっており、色のもつ効果が大いに認められているにもかかわらず、たいていの文字情報がいまだに黒1色だ。【①】書籍の本文、会議資料、新聞、書類……。色がついているのは、たいていがタイトルや見出し、写真や図版といったところだけだ。

その背景には、印刷物をカラー刷りにするとコスト高になってしまうという問題がある。また、大量の文字情報を読むのには、墨文字が最も目に負担をかけない、そういう常識的見解があることも［ C ］だ。【②】

それでも、黒1色には魅力がない、とあえて言いたい。

黒には、そこに誰かがかかわっているという「生きた」印象がない、いわば匿名的な印象だ。ここには何の主観的判断もありませんという無味無臭の色合いのように思われる。【③】

だからこそ、ウ自分たちで読みやすく手を加える意味がある。

私はすでに50年近くこの3色方式を実践してきた。思い返してみると、大学入試の受験勉強をしているときから、この方式を用いていた。現在の3色に固め、筆記具をボールペンに決めるのはもっとあとのことだが、「［ D ］」「［ E ］」「［ F ］」の3つの観点で捉えるという発想そのものは、その頃から変わっていない。

完全に、頭の中に3色の発想法が染み付いている。そのため、黒1色の資料を見ると、のっぺりした、何の興味も引かない、つまらない資料に思えてしまう。【④】そこで、すかさず3色方式で読み通して、自分らしいものにしてしまう。

黒い文字の上に、黒ペンで丸をしようが、線を引こうが、それはあまり目立たない。インパクトが弱すぎる。印をつけても、そこが浮き上がってこない。【⑤】

私から見れば、黒は判断停止の色だ。硬直した脳のイメージと言い替えてもいい。

配られた状態のときのまま、何の書き込みもない資料を広げて会議にエノゾんでいる人を見ると、いったいそこからどうやって意見やアイディアが湧いてくるのかと不思議に思う。

私は書く時も黒は使わない。ノートも書類も青で書く。これまでそれで文句を言われたこともないし、突き返されたりしたこともない。欧米では、正式な書類やサインにもごく一般的に青インクが用いられている。日本には大事な書類や手紙は黒で書くという旧習が根強いようだが、そこにいつまでもしがみついている意義が、私には見出せないのである。

もうおわかりだと思うが、従来からある黒・赤・青の3色ボールペンは、この3色方式には向かない。黒という色のもつ匿名性が効果を半減させるのだ。

ここに私の提唱する黒のない赤・青・緑の3色ボールペンと、黒のある4色ボールペンとがあったとしよう。両者が同じ値段だったとして、どちらかを選べと言うと、間違いなくほぼ全員が4色のほうを取る。オ残念なことに、単純に3色よりは4色のほうが得だと考えてしまう。【⑥】

たしかに一見黒があったほうが便利なようだ。いざというときには黒が使えるという安心感があるからだ。この場合のいざというときとは、判断に困ったときである。

「青にしたらいいのか、緑にしたらいいのかわからない。とりあえず黒を使っておくか」

なまじ黒があるばかりに、そんなホカケンになってしまう。迷ったら黒にすればいいと思って安心し

てしまうと、判断力が鈍る。黒を使うという行為は、ここで3色に決めるんだという強い意志を弱めさせるのだ。

結局、そこでつい黒を使ってしまう人は、またしても判断の先送りをしたことになる。一度それをやると、意志は崩れていく。判断を［ G ］黒を使うことがどんどん増えていき、やがて黒が中心になって、ほかの色は黒の付随品になってしまう。黒だけでは判断停止、脳が硬直している状態だといわれるから、ちょっと彩りを添えるためにほかの色も使おう、というに過ぎなくなる。

最初から、赤・青・緑の3色しかないんだ、この3色を使って、この情報をきっちりふるい分け自分の中に取り入れるんだ、という姿勢こそが訓練になる。【⑦】

分け方そのものはアバウトでいいし、どこをどの色にするかを深く考え込む必要はない。ただし、この方式をやってやるんだという意志を強く持つ。世の中のすべてを3色で振り分けてやるぞ、くらいのつもりでやる。そうすれば、このやり方を習慣づけ、自分の中に技化（わざか）していくことができる。

大事なことは、自分の脳のアンテナを鍛えるということ。

自分の脳を甘やかしてはいけない。

取り組み方次第で、情報というのはいろんな顔をもって現れてくる。

「最重要のところを絶対見つけるぞ」という覚悟で赤を使うことを［ H ］にして読むのと、「そのうち大事そうな所が出てきたら赤をつけよう」という姿勢とでは、まったく違う。

例えば、ある程度の長さの文章を読んでもらうときに、私は、

「緑・青は何箇所引いてもいいけれども、赤は3箇所だけにしてください」

と言うことがある。すると、大人でも子どもでも、引き方が違ってくる。読み方が違ってくる。気合が入る。緊張感が出る。

延々と赤を引いてしまうのも、ルーズなことだ。放っておくと結局赤を引くだけの勇気がなくて、赤を引かずじまいにしてしまうということもよくある。そこをしっかりとつかまえてもらうために、

「必ず3箇所には引いてください」

と言うと、みんな非常に真剣な面持ちになって考える。勝負を賭けるようなイメージで赤をしっかり引く。強い意志でその情報に向かうクセがついてくる。その自分を賭ける、勝負を賭けるという姿勢の習慣づけが重要だ。

情報というと、非常に淡々としたイメージがある。自分の外側にある、冷えたもの。【⑧】その情報を自分用に組み替え、生き生きとしたものにしてしまう、そのための道具が、この3色ボールペンである。

（略）

色に意味をもたせ、色分けするという行為を、脳が自然に行えるように習慣づけることが大切だ。

例えば、ソロバンと電卓を比較して考えてみよう。ソロバンは持ち運びのできるシンプルな道具である。電卓もさらに小型軽量化した非常に便利な道具である。しかし両者には決定的な違いがある。

ソロバンは習熟すると、その場に実際に道具がなくても、指を動かしているだけで計算ができる。脳の中で、カチカチカチと珠（たま）を弾（はじ）いて、暗算をすることができるようになる。ソロバンを覚えること

により、脳は鍛えられ、それが「技」となる。

一方、電卓の操作性はじつに簡単で、誰でも使うことができる。しかし、あの薄い小型機械の中で行われていることは、使い手には見えない。瞬間的に処理する計算だったら電卓のほうが速いが、どんなに便利であっても、電卓を持たずに計算できるようにはならない。電卓は人間の脳を鍛えてくれる道具ではない。

現代日本は、脳を鍛える道具や方法に対して、あまりにも価値を認めなさすぎると思う。こうした脳みそを鍛えてくれるものを、もっと大事にすべきではなかろうか。

3色ボールペンは、ソロバンと同じく脳を鍛える道具である。脳を鍛えることにより、「技」になる。習熟すると、ボールペンを持っていないときでも、あ、これは緑、これは赤というふうにパッと頭の中に整理がつくようになる。【⑨】

映画を観ていて、ここはこの映画の青の部分だ、ここが赤だ、ここに緑をつけたいなあと、次々と頭の中に浮かぶようになれば、この3色方式を自分のものにできたといってよい。

このような、自分のものにできるというところまでもっていくことを、私は「技化する」と名づけている。

（斎藤孝（さいとうたかし）『情報活用のうまい人がやっている3色ボールペンの使い方』フォレスト出版　2023年より）

ただし、問題作成の都合で一部改変したところがある。

問一　文中の傍線部ア「シン」に相当する漢字を含むものを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。該当するものがなければ⑦を選びなさい。　1

① シンミになって話を聞いてくれる　② ラシンバンで船の方位を測定する
③ 彼は野球のシンパンインだ　④ 彼女はシンチョウな性格だ
⑤ シンカンとした境内を歩いた　⑥ クッシン運動を行った

問二　文中の傍線部イ「きわめて」と同様の意味でないものを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。該当するものがなければ⑦を選びなさい。　2

① たいそう　② このうえなく　③ はなはだ
④ いっそう　⑤ 非常に　⑥ もっとも

問三　文中の空欄 A に最も合致するものを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。該当するものがなければ⑦を選びなさい。 3

① おそらく正解である　② 新しい発見と思われる
③ 誰にとっても絶対に重要な　④ 筆者の考えとは別な
⑤ ルールとして守ってほしい　⑥ 今思えば大切な

問四　文中の空欄 B に最も合致することばを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。該当するものがなければ⑦を選びなさい。 4

① たとえば　② とりあえず　③ だから
④ ただし　⑤ そして　⑥ また

問五　文中の空欄 C に最も合致することばを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。該当するものがなければ⑦を選びなさい。 5

① 無駄　② 有利　③ 不合理　④ 反対　⑤ 承知　⑥ 問題

問六　文中の傍線部ウ「自分たちで読みやすく手を加える意味がある」と筆者が考える理由として最も合致するものを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。 6

① 他人の作成した文章はわかりにくく、自分が知りたいと思うことと一致していないこともあるから
② 経費削減のために重要な事柄もカラーで印刷されることが少なく、読み手が工夫をする必要に迫られているから
③ コピーしたときにカラーであるときれいにコピーできないため、黒文字が多く使用されている状況であるから
④ 黒色で書かれた文章は、重要なポイントもわかりにくく面白みもなく文字が並んでいる印象であるから
⑤ 人というものは色で記憶していることが多いにもかかわらず、印刷されている文字は黒色だけであり覚えられないから
⑥ 黒色で書かれた文章は目に優しく読みやすいが、人によって黒一色はかえって文字の判別が難しいから

問七　文中の空欄 D ・ E ・ F に最も合致することばの組み合わせを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。該当するものがなければ⑦を選びなさい。 7

	D	E	F
①	最適	まあまあ	普通
②	必須	試験にでるかも	出ない
③	魅力的	普通	魅力なし
④	未来予測	現在のこと	過去のこと
⑤	実現可能	実現可能かも	実現できない
⑥	最重要	重要	おもしろい

問八　文中の傍線部**エ**「ノゾんで」に相当する漢字を含むものを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。該当するものがなければ⑦を選びなさい。 8

① 世界の頂点にクンリンする　② ボウキョウの念に駆られる
③ それはリンリの問題だ　④ テイボウが決壊した
⑤ 体育館にリンセツしている　⑥ それはムボウな計画だ

問九　筆者が文中の傍線部**オ**「残念なことに」と述べる理由として最も合致するものを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。該当するものがなければ⑦を選びなさい。 9

① 黒の入った4色のボールペンの値段は実際には3色のボールペンの値段と異なることから
② 一般的に4色の方が3色より得をした感じがあるが、実際には4色も使うことがなくインクが無駄になることから
③ 4色のボールペンは黒色の使用可能であるため便利だと考えがちであるが、実際には黒色の使用が多く、ほかの色は使わないようになることから
④ 同じ値段で3色と4色のボールペンがあれば、4色を選択するのが人間として当たり前の行動と考えられ、考えるまでもないことから
⑤ 3色が必要なのか4色が必要なのか、その用途を考えずに同じ値段であれば多い方が得という考えで選択するということから
⑥ 欧米では、青色インクで正式な書類にサインすることが多く、黒色が不要であることを知らない人が多いことから

問十　文中の傍線部**カ**「ホケン」に相当する漢字を含むものを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。該当するものがなければ⑦を選びなさい。 10

① ケンコウを増進する　② ケンゴな守備だ
③ ケンアクな空模様である　④ ケンプを輸出する
⑤ ジッケンをして確認する　⑥ 今後のケントウ課題だ

問十一　文中の空欄 G に最も合致することばを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。該当するものがなければ⑦を選びなさい。 11

① 鋭敏にして　② ゆがめて　③ 怠って
④ 瞬時にして　⑤ 実施して　⑥ 誤って

問十二　文中の空欄 H には「ある物事をなす土台となるもの（広辞苑第7版）」という意味のことばが入ります。最も合致するものを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。該当するものがなければ⑦を選びなさい。 12

① 結論　② 推測　③ 議論　④ 決意　⑤ 熱意　⑥ 使命

問十三　次の一文が入るべき箇所を、本文中の【①】～【⑨】のうちから一つ選びなさい。 13

【それが情報という言葉のますさだと私は思っている。】

問十四　本文を内容からいくつかのまとまりに分ける場合、3つめの内容の始まりのことばを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。 14

① 私が黒を使わないのは　② その背景には　③ 私から見れば
④ もうおわかりだと思うが　⑤ ここに私の提唱する　⑥ 結局、

問十五　この文章の内容に合致するものの組み合わせを次の①～⑧の中から一つ選びなさい。該当するものがなければ⑨を選びなさい。　15

i　4色ボールペンによる情報整理は3色ボールペンのようにはできないので筆者はすすめていない

ii　文書を読むときに漫然と読むことで、情報の整理整頓ができ3色ボールペンによる色分けも効果的にできる

iii　脳を鍛えるためには、電卓などの便利な道具を使うばかりでなく意図的に昔ながらの道具を使うことが必須である

iv　技化することで目の前に道具がなくとも、同様の処理が脳でできるようになる

①　i、ii　　②　i、iv　　③　ii、iii　　④　iii、iv

⑤　i、ii、iv　　⑥　i、iii、iv　　⑦　ii、iii、iv　　⑧　i～iv

Ⅱ　次の文章を読んで、後の問い（問一～十五）に答えなさい。設問の都合で本文の段落に1～21の番号を付してあります。

1　文化という現象が人間にとって非常に重要なのは、それが価値の問題でもあるからです。価値というもの、あるいは人間にとっての象徴的なものを意味として与えるのが文化の大きな［A］である、と言ってもいいでしょう。ですから私たちは生まれ育った文化の枠によって[ア]ソクバクされる度合いがかなり強いということができます【①】。どんなに国際化されても、あるいは自分の文化を振り切ったと思ったとしても、どこかに自分が生まれ育った文化をになっている、あるいはその宿命から逃れられないという側面を人間は残しています。【②】

2　たとえば、ドイツで育ったユダヤ系のハンナ・アーレントという有名な政治哲学者がいます。彼女はナチスに迫害され、アメリカに行って、アメリカの大学で英語で講義し、本を書くようになりました。しかし彼女が第二次世界大戦後ドイツに初めて旅をしてインタビューに応じ、その中でドイツに惹（ひ）かれると語っているのです。自分が育った母語としてのドイツ語に惹かれるという理由でした。ナチス・ドイツにあれほどひどいことをされて、アメリカで学者として名声を得て、ドイツに思いを残すことなど一切ないはずの、［B］ドイツに住む必要のない人間が、生まれ育った文化、とくにその言語に対して断ち切れない郷愁を覚えてしまうというのです。【③】

3　日本人の場合は、戦争に際しても外国に亡命したり、国籍を変えるケースは非常に少ないといってよいでしょう。逆に長年外国で成功した社会生活をおくっていても最後は日本に帰ってくるという例はたくさんあります。その場合も、帰国する動機に育った日本文化が強く影響していることが多いと思います。

4　一方で、［C］現代は、これまでにも触れましたように誰しも異文化と出会うという経験を持たざるをえない時代と言えましょう。どんな地球の片隅に住む人間でも、どこかで自分と違った文化と接していると言われていますが、それは、まったく孤立した文化というか孤立した人間集団は九九パーセント存在しえない、ということなのです。[イ]特に近代以降の交通手段の発達した時代になると、なんらかの形で異文化と接触することが、繰り返しますが人間が生きるうえでの一種の宿命になってきています。

5　社会の中で個人は孤立しては生きられないわけで、他人と出会い、集団と一緒に生活するというのが社会的動物といわれている私たち人間の宿命です。と同時に、文化も一つの文化だけで孤立しては成立しません。自文化だけでは存在しえないのです。他の異文化と絶えず接触しながら、その影響をうけたり、また影響を与えたりしながら存続していくのが文化であると言っていいと思います。日本の文化もまさに太古以来いろいろな異文化の影響をうけて存在してきました。この文化の「混成性」については後で詳しく触れたいと思いますが、現在のような日本文化も、濃厚に外来の異文化の影響を受けて成立してきたものなのです。【④】

6　このように、人は生まれ育った文化から抜け出し難く、同時に異文化と絶えず出会わなければならないという二つの宿命を併せ考えると、私たちは自文化と異文化の狭間（はざま）の中で生きていかざるを

得ないし、現在は特にそういう時代だと言うことができると思います。それが逆に自文化の枠と異文化との違いを感じさせもするわけです。[ウ]文化をめぐる状況はとても複雑です。【⑤】

7　異文化と出会うことは現代人にとって避けられない宿命と申し上げました。[エ]その場合の異文化は、たとえば外国からきた一枚の絵葉書でもいいのです。たとえば、インドからきた絵葉書に祭の風景が描かれていて、これはなんだろう、自分たちの祭と違うものだと感じたとします。これはもう異文化と接触したことになるでしょう。また、人によっては両親が仕事などで外国に行き、その外国で生まれ育って、日本へ帰ってきて初めて日本文化を異文化として発見する人もいます。それから小説とか、映画とか、音楽とか、またテレビやインターネットなど、いろいろな形で異文化と出会う機会がいまでは豊富に与えられていますが、大切なのは、異文化を異文化として意識するということではないかと思うのです。【⑥】

8　たとえば、私自身にとっての異文化との出会いと言えば、小さいときに家の[オ]ナンドに入ったら、そこに祖父が明治時代に外国に行ったときのトランクがいくつか置いてあって、そこにいろいろなラベルが貼ってあるわけです。船で行った時代ですから、航海したときのラベルとか、外国のいろいろなホテルのラベルが貼ってありました。これはなんだろうと母に尋ねましたら、それは祖父が外国旅行したときのものとの話で、そこで最初に異文化に出会ったような気持ちになったことがあります。いまでもよく覚えていることです。

9　またある主婦は戦後間もなくアメリカ旅行をして帰ってきた父親が、ティッシュを持って帰った。そのティッシュに香水の匂いがついていた。そのころの日本では「塵紙（ちりがみ）」と言っていたような時代でティッシュなどはなかったころですから、それを見て初めてこれはアメリカ文化だと感じ、異文化と出会ったと思った、という話を聞いたことがあります。あるいは戦後アメリカが日本を占領していましたから、占領軍のアメリカ兵のベレー帽とか、アメリカ兵からもらって食べたチョコレートの味とか、異文化を意識したいろいろな場面とか機会が私自身の小さい頃の記憶に照らしてみてもあったと思います。

10　先にも記しましたが、さらに現在の日本の都会では、向こうから日本人とまったく同じような身体と服装をした人が来て出会ったときに、日本語で話しかけたら中国語が返ってくるとか英語が返ってくるとかいった経験をすることがあります。外国に行ったとき、自分たちで［　D　］だと思っていたことがまったく［　D　］でないという経験をし、そこで異文化がある、違った世界があることを認識するのは普通の体験でしょうが、国内で外国人に出会ったときにも同じような経験をすることがあります。【⑦】

11　外国語を初めて習い始めたときにも異文化体験ができるのですが、ただ、これまでの日本の学校ではこれを異文化理解の形で教えようとはなかなかしませんでした。英語教育も、最近ようやく、[カ]本当は文化としての英語を教えなければいけないと言われだしましたが、これまではほとんどそうではありませんでした。少なくとも私などが受けてきた経験では言葉は文化と切り離されていました。しかし、言葉は人と文化とともに存在するものですから、言葉だけ独立して教わるというのは難しいと思います。そういう点では日本は外国語教育の面でもあまりにも自文化の中に充足しすぎ

ているのではないでしょうか。私は、日本は外来文化を非常に広く受け入れる、世界でも珍しい社会であると思っています。ですから、日本にくれば世界中の料理があるとか、世界中の文化のいろいろな面が見られることもあるし、欧・米を中心として外国語の書物の翻訳も書店にあふれているわけですが、同時に、日本の文化の特性として、外来文化を自分たちが必要だと思うところは全部取り入れてしまうが、そうすると本来の文化が持っていた形を全部なし崩しにして自文化に同化させてしまう、あるいは消化してしまうところがあるとも思っています。たとえば、平仮名とか片仮名という日本の文字はもともとは中国の漢字からつくり出されたものといわれていますが、いまではこれにさらにローマ字も加えて使っているわけです。それらを日本語の中に吸収してしまい、漢字も本来の中国語とは違う意味や音で用い、ローマ字も日本語的に使っています。【⑧】

12 日本文化には、非常に開かれた受容性と同化、あるいは、消化による閉鎖性が同居している側面があります。そしてそれが、これだけ外来文化を多く取り入れているのに、依然として異文化に対して非常にナイーブだといわれ、キ国際化で苦しんでいる大きな理由ではないかと思っています。

【⑨】

（略）

13 混成文化、そして混成の仕方ということについて、文化に流れる「時間」を手がかりにもう少し詳しくお話ししたいと思います。

14 私はこれまで、アジアのいろいろな文化と接してきましたが、アジアには現在四つの文化の時間が流れていると考えています。

15 第一に、それぞれの地域や土地固有の文化的な時間、土着的な時間というものがあります。たとえば、日本文化でいえば神道の時間です。神道は信仰であり、宗教でありますが、日本独自の土着的な信仰です。これが現代でもちゃんと生きていて、日本文化には神道という文化の時間が流れています。

16 二番目は、アジア的文化の時間です。これは、大陸から日本に渡ってきた仏教や、儒教、漢字など、南アジアや東アジアの古代文明に発する普遍的な文化時間のことです。

17 文化には、グレート・トラディション（大伝統）とリトル・トラディション（小伝統）という分け方があって、グレート・トラディションというのは広く影響を与えるような強い文化、普遍性をもった文化のことです。それに対して、リトル・トラディションというのは、土地土地それぞれの自生の文化、固有の文化のことです。どこの文化も、大伝統と小伝統との組み合わせで文化が成り立っているといえます。

18 三番目は、西欧的、近代的文化つまり、近代化や工業化を促す時間です。日本人をはじめアジアの多くの人々が洋服を着るなど生活様式の面でも大きな変化を遂げました。近代化は、その程度の違いはあってもアジアの国々にとっての基本的な課題であり、経済発展にともなう都市化や社会生活の変化がどこの社会でも起こっています。それまでにないダイナミックな直線的な時間の導入でもあります。これが近代的文化の時間なのです。

19 土地の時間、アジア的な普遍的な時間、そして西欧によって影響された近代的な時間という、こ

の三つの時間の総和の上に、四つ目の現代的な時間があります。

20　日本人の生活には以上の三つの文化的時間が流れているわけですが、その三つの文化的時間が混成して新しい形の現代日本文化を創り出していると思います。アジアの多くの国ではそれぞれ混成の仕方はちがいますが、それぞれの国の現代文化の時間を創り出しています。

21　世界の他の地域の文化も混成的な性格を持っていますが、ここで問題とするアジアの文化にはこの四つの文化的時間が流れていて、この四つが混合、混成して、ひとつの文化を成立させているように思います。

（青木保『異文化理解』岩波新書　2023年より）

ただし、問題作成の都合で一部改変したところがある。

問一　文中の空欄 A に最も当てはまることばを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。該当するものがなければ⑦を選びなさい。 16

① 価値　② 変革　③ 創造　④ 衝突　⑤ 浸透　⑥ 特質

問二　文中の傍線部ア「ソクバク」に相当する漢字を含むものを次の①～⑤の中から一つ選びなさい。該当するものがなければ⑥を選びなさい。 17

① 先行きをスイソクする　② ヤクソクの時間に遅れた　③ ショウソクが不明だ
④ くンソク的な動きだ　⑤ 時代にソクオウした教育

問三　文中の空欄 B に最も当てはまることばを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。該当するものがなければ⑦を選びなさい。 18

① しかし　② やはり　③ ところが
④ もとより　⑤ そして　⑥ または

問四　文中の空欄 C には「ことさらに（広辞苑）」という意味のことばがはいります。最も当てはまることばを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。該当するものがなければ⑦を選びなさい。 19

① やはり　② 一般的に　③ ありていに
④ さりながら　⑤ とりわけ　⑥ けだし

問五　文中の傍線部イ「特に近代以降の交通手段の発達した時代になると、なんらかの形で異文化と接触することが、繰り返しますが人間が生きるうえでの一種の宿命になってきています」の内容に合致しないものを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。該当するものがなければ⑦を選びなさい。　20

① 交通の便がよくなると人の往来が増加し、それまで交流のなかった地域の人々とも交わることで文化の交流がおこる

② 昔に比べて輸出や輸入が盛んになることで、諸外国の物品を手軽に手にすることができるようになる

③ 各人が大切にしている価値観が文化の基盤になっており、人間は一人では生きていくことができない

④ 写真や絵画、音楽などは、人や物の移動にともない伝えられることになり、それらに全く触れずに生活することはできない

⑤ 人の交流が盛んになるということは、自国の人間が他国へ移動することも簡便にできるようになるということで他国の文化に触れる機会となる

⑥ 物流がよくなることで、今まで口にしたことのない食べ物を手にしたときに、その国とつながることになる

問六　文中の傍線部ウ「文化をめぐる状況はとても複雑です」の内容として最も合致するものを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。該当するものがなければ⑦を選びなさい。　21

① 文化というものは、自文化でさえ言語化や可視化することができないため、異文化に常に出会っている現代はとても難しい構造である

② 年代によって価値観が異なるため、異文化との出会いを避けることが複雑な状況を回避する方法である

③ 交通の発達などで生活が便利になるにつれ異文化に出会う機会も多くなり、自文化との違和感を常にもちながら生活することになる

④ 人は自文化の枠組みから外れることはできないため、異文化を取り入れることで新しい文化を創造しようとする

⑤ 自文化さえも実感していることは少ないうえに、異文化に出会っていることも理解していない状況である

⑥ 自分の意思で異文化の中に身を置いたとしても、自文化から離れることは絶対に不可能である

問七　文中の傍線部**エ**「その場合の異文化」の内容として合致するものの組み合わせを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。該当するものがなければ⑦を選びなさい。 22

i　SNSで海外の情報に目を通して日本との違いを感じた
ii　外国にルーツを持つ友人から大切にしている習慣を聞いたときに不思議な感じがした
iii　家の片づけのときに見たことのない文字のはいった切手を見つけ、文字を調べた
iv　友人に勧められた小説の舞台が海外の中世のものであり、目を閉じて想像した

① i、iv　② ii、iii　③ iii、iv
④ i、iii、iv　⑤ ii、iii、iv　⑥ i～iv

問八　文中の傍線部**オ**「ナンド」に相当する漢字を含むものを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。 23

① 税金をノウニュウする　② 茶道のシナンを受ける　③ 時計はナンジですか
④ ヤワらかいパンだ　⑤ ノウコウな味だ　⑥ 彼はジナンだ

問九　文中の空欄 D には「なんらの証明を要せず、それ自身ですでに明白なこと（広辞苑第7版）」という意味のことばが入ります。最も当てはまることばを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。該当するものがなければ⑦を選びなさい。 24

① 違反　② 有事　③ 有益　④ 特別　⑤ 明記　⑥ 普通

問十　文中の傍線部**カ**「本当は文化としての英語を教えなければいけない」と言われ始めていることに筆者が賛同する理由として最も合致するものを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。該当するものがなければ⑦を選びなさい。　25

① 漢字やローマ字は日本人が使いやすく考え出したものであるが、英語は日本人向けにアレンジできない部分があるから

② 英語で書かれた書籍など翻訳して書店にあるため、英語を読んだり話したりできなくても困らないという錯覚におちいってしまうから

③ 現代は、インターネットなどの利用により世界と簡単につながることが出来るため、言葉だけでなく文化を一緒に教えやすいから

④ 日本の文化の特性は英語を文化とともに教えるには困難が多く、今まではまず言葉だけを教えることを優先していたから

⑤ 言葉は人々の生活や価値観など文化が密接に関係しているため、その言葉を使用している人々の文化を一緒に学び意味を理解する必要があるから

⑥ 日本は島国であり海外ほど種々の言語が存在しないため、英語教育の方法が十分に吟味されずに今日まで来てしまったことに反省しているから

問十一　文中の傍線部**キ**「国際化で苦しんでいる大きな理由」の内容に最も合致するものを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。該当するものがなければ⑦を選びなさい。　26

① 日本は異文化に対して非常にナイーブであり、外国の文化を取り入れることに不安や恐れを抱いているから

② 日本は英語を文化と切り離して教えていることで、英語がもつ本来の意味を理解することができていないから

③ 日本は異文化に対して受容性をもっているが、それは日本人が必要と考えている部分においてのみであることから

④ 日本は異文化を取り入れることに寛容であるが、一方で日本風に異文化を取り込んでしまうという面をもっているため、異文化に対してナイーブであるから

⑤ 日本人は外来文化という言葉を使用するが、実際のところその内容を十分に理解したとは言い難い状況であるから

⑥ 異文化と出合ったとき日本人は良いところを導入するが、そのために自国の文化をなし崩しにしてしまっているから

問十二　次の一文が入るべき箇所を、本文中の【①】～【⑨】のうちから一つ選びなさい。 27

【また誰しも映画やテレビや本を通してでも、自分たちとは違うな、これはなんだろうと思うような異文化との出会いの瞬間があるはずです。】

問十三　筆者の述べる混成文化について最も合致するものの番号を次の①～⑥から一つ選びなさい。該当するものがなければ⑦を選びなさい。 28

① 文字通り混成とは入り混じっているということであり、自文化と異文化が合わさっているものである

② アジアでは時間という切り口で見ると4つの文化の時間があるが、それらはすべて同等な関係性ではない

③ アジア以外の国々においては文化の時間の混成・混合があるとはいえず、文化の時間はアジア独自のものである

④ 自文化というものは異文化に触れることで混成されるため、純粋な自文化というものは存在しない

⑤ 人間は他者と出会うことで生活を営み文化を形成していくため、すでに混成文化ということができる

⑥ アジアのなかでも日本は珍しい文化の受容性と閉鎖性を有しているが、それこそが混成文化である

問十四　本文を内容からいくつかのまとまりに分ける場合、2つめの内容の始まりの段落番号と見出しの組み合わせとして最も合致するものを次の①～⑥の中から一つ選びなさい。該当するものがなければ⑦を選びなさい。 29

① 5　自文化だけでは生きられない

② 6　自文化からの脱却の難しさ

③ 7　身近に異文化を見出す

④ 8　異文化の経験

⑤ 9　異文化とはなにか

⑥ 10　異文化と混成文化

問十五　本文を読んだ三人の学生が話し合っているところです。空欄 a 、 b 、 c に入るものとして最も合致する組み合わせを①～⑥から一つ選びなさい。　30

学生ⅰ　筆者は、自文化の中で生活していても、人間は他者との交流なしでは生きていくことができないから知らず知らずに a を取り入れているということを述べていたね。

学生ⅱ　うん、交通が発達することで人の往来が増加し、今まで見たこともなかった物や言葉に出会いやすくなったので、それらがいつの間にか自国のもののようになっていったんだよね。筆者は、漢字を例に挙げて説明していたよ。

学生ⅲ　他にも海外の料理やスタンプ、服装なども、実際に海外に赴かずとも異文化に触れる機会となるので、日本人は b の必要と思うところを取り込み、自文化にしてしまうんだよね。筆者はこういったことを c と表現していたよ。

学生ⅱ　自文化と異文化という言葉を使っているけど、混成文化という文化の混成とか混合ということも述べていたね。

学生ⅰ　そうそう特にアジアの文化に関して、文化に流れる時間という視点から文化の混成の仕方も考察していたんだよね。

	a	b	c
①	自文化	外来文化	文化の混成
②	混成文化	自文化	文化の混成的性格
③	外来文化	異文化	アジア的な時間
④	異文化	外来文化	日本の文化の特性
⑤	自文化	混成文化	普遍的な文化の時間
⑥	異文化	混成文化	文化の総和

（現代の国語・言語文化　終わり）